

希望を語る

第 269 号
2024.1.1

2000 年 8 月発足

23 年の歴史を持つ患者会“希望を語る会”ニュースレター



1

希望を語る会事務局:健康増進クリニック

TEL03-3237-1777 Fax03-3237-1778

www.kenkou-zoushin.com info@kenkou-zoushin.com

今年はアルカリ化+放射線ホルミシスに取り組みます

院長 水上 治

世界中のデータで、癌の患者さんに推奨されている食餌は、和食的な食餌・豊富な野菜果物の摂取・肉を避け大豆をしっかり摂る・タンパク質は 1 日に体重 1 kg 当たり 1g の摂取・白砂糖などの精白炭水化物を避けることです。

このような食餌は体のアルカリ化を促し、尿がよりアルカリ性になります。

私自身も半世紀以上ほぼ菜食をしています。ベジタリアンは様々な癌の発生リスクが半分近くに減るので、菜食化即ちアルカリ化は癌患者さんに適切であると考えています。

京大の和田洋巳名誉教授は、尿の pH が 7.5 以上の人に、癌治療の著効例が多いと言っています。アルカリ化療法を行った難治性膵臓癌の 30 か月後の生存率は 30%に達しますが、コントロール群はゼロです(表)。

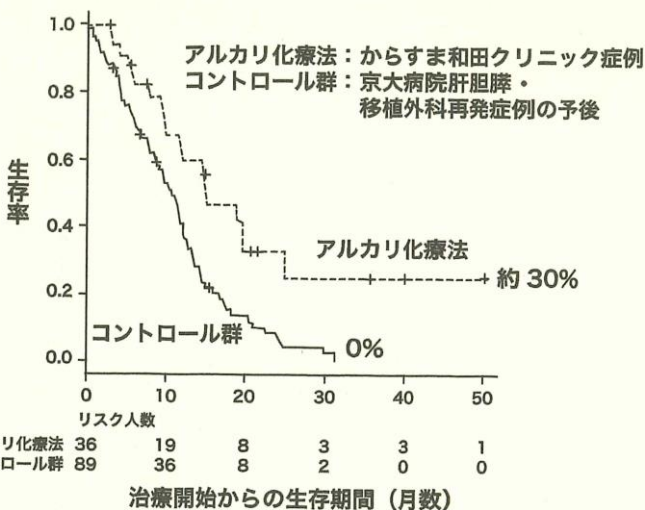
昨秋の和田洋巳先生との話し合いで、できる限り、放射線ホルミシス療法を併用して、さらに良好な結果を得ようではないか、ということになりました。放射線ホルミシスは簡単に言えば、

癌に最適な物理療法で副作用はありません。

当院の癌医療には様々なバリエーションがありますが、今年は、従来の超高濃度ビタミンC点滴療法と放射線ホルミシス療法に、アルカリ化療法(アルカリ食+重曹とクエン酸の内服)を加え、和田先生とチームを組んで、さらに癌の患者さんによくなっていたきたいと願っています。尚、ビタミンCとの相性を考えて、現時点では重曹の点滴は行いません。

ヨーロッパではとくに常識になっている、体のアルカリ化に挑戦しませんか。

予後不良膵臓がん(再発・転移)生存率



みーこねーちゃんの絵手紙

佐藤美恵さま

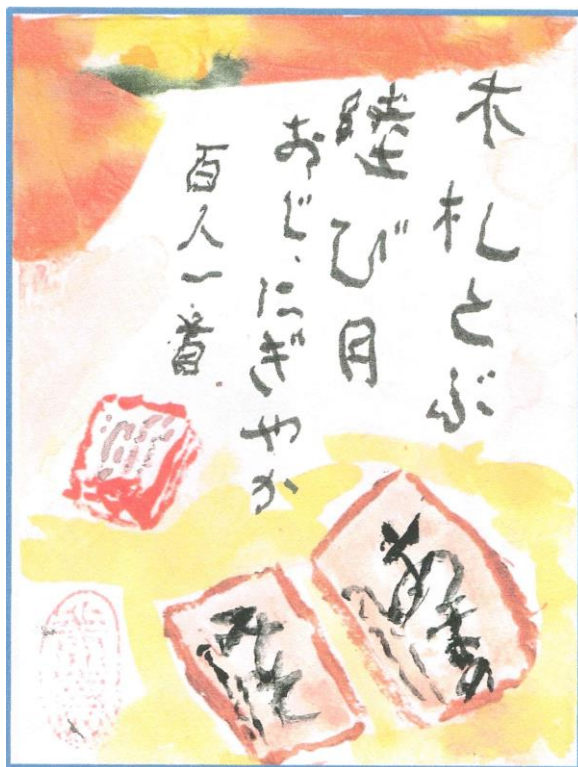
2024 CALENDAR



作者 mie

企画編集 noriko chika miki mayuko

saki masayoshi hana akira



今年もクリニックに佐藤美恵様が描いた可愛いカレンダーと北海道の妹様からのお手紙が届きました。ご家族様のあたたかい愛情のこもったカレンダー、待合室のドアに飾ってありますので、是非ご覧になってください。

今年の夏の猛暑は北海道に住んでいる者にとっては悲劇でした。従来の夏は30度になっても長くは続かず、扇風機で過ごせたのです。しかし今年は異例でした。扇風機からは熱風が流れ、窓を開けても風は入ってきません。その状態が6月頃から始まったのです。6月のヨサコイ祭りや北海道神宮祭の時にはストーブをつけることもあったというのに、10月11月になっても例年に比べ暖かい日が続く、嬉しい反面、海面の温度が下がらないため北海道では捕れないはずのフグ、ブリなどが豊漁で、鮭がとれていません。山には熊の餌となる木の実がならず、熊は人間が棲む地域まで餌を求めて下りてきて、今までになく人間の被害が増えています。冬眠をするにも餌にありつけず冬眠のできない熊が出てくるかもしれないといわれています。気象温暖化はこの先も続きそうで世界がこの問題に取り組んでいるのですが、日本はもっと真剣に考えなければならないと思います。

さて、みーこ姉ちゃんの絵手紙ですが、本人は今年5月に大変な手術に挑みました。年齢も考慮し、子ども達と本人の話し合いの結果、決断したようです。幸い無事に終了しましたが、長いリハビリが続く、未だに起き上がって絵筆を握ることが出来ないようです。本人は描く気持ちはあるのですが、焦らずにリハビリをして欲しいと思います。11回続いているカレンダーを終わらせたくなく、5月までは入院する前描いたもので、それ以降と表紙の絵は10年以上前に私の元に届いた絵葉書載せて作りました。みーこ姉ちゃんは昔から絵も文も字も上手だったと改めて感心させられました。無事12回目のカレンダー完成しました。

協力してくれた姪や、その子ども達にすっかり任せるようになってしまい感謝しかありません。

みーこ姉ちゃんの早い回復を祈りつつ、皆様もお元気でお過ごしになられますように！

今年もお疲れさまでした。来年は世界が平和で悲しい出来事が起きないことを祈ります。

紀子（北海道の妹様より）

佐藤様はH7年に脳梗塞で左半身麻痺となり、H24年より当院にて鍼治療を開始しました。元副院長の加藤医師の勧めで始めた絵手紙。もともとは右利きですが左の麻痺を克服するために、左手で描いています。

コロナウィルス感染症でなかなかお目にかかれなかった級友の母上にやっとゆっくりお会いすることができました。浜辺近くの洒落たレストランでランチの終わりにデザートプレートのサプライズ。それはなんと私のために用意されたサプライズだったので。

花火のデザートプレート

かいだ ふゆき

長き年月過ぎ行きて
実母は早くに眠りに就くとも
身代わり励ましくださる
級友の母上 96 歳

激励のデザートプレート
天に向かって
羽ばたく
閃光花火*



小さな煌めきの宇宙
我を魅了し
煌めきのひとつひとつが
心の^{ひた}襞を明るく照らす

光の花束
絶えては^{ひらめ}閃き繰り返し
無限の^{ともしび}燭に
心の^{おり}澱も温もれる



*この詩のための造語（線香花火）

五行歌

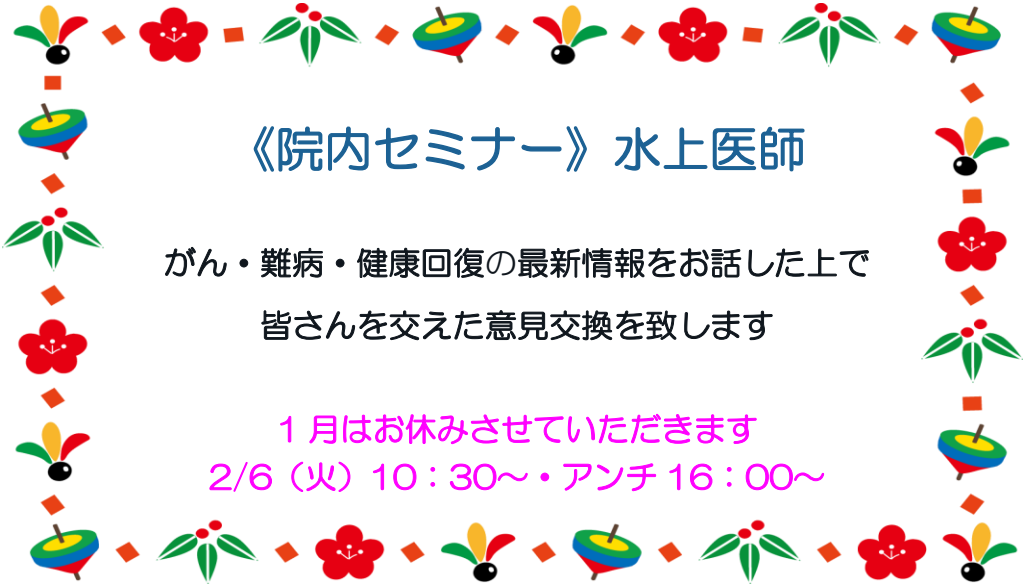
小林美智代さま



オオルリ S.S

人との縁と出会い
 このつながりがあつて
 くらしは楽しく幸せ
 鳥が庭の水のみに
 つぎつぎにやってくる
 この小さな命

長生きしてと孫が云う
 ありがたいと思う
 役に立つ祖母でありたい
 五行歌をよんで下さる方の受けとめがそれぞれで面白い
 神さまがつくられた人間の体命を伴って
 確信する



曜日	治療時間	電話受付
月・火・木	9:30~16:30	9:15~16:30
金	9:30~17:00	9:15~17:00
日曜日 (月2回)	9:00~14:00	8:45~14:00
※ 日曜診療日： 1/14・1/28・2/4・2/18		

★「希望を語る」は患者さまの体験談や、また特技を生かしたメッセージ、いま語りた事、その他何でも、情報交換の場を提供させていただく冊子です。写真や原稿などございましたら是非、事務所またはスタッフまでお知らせください。お待ちしております。